

入学準備学習

高校卒業までは、高校の授業を最優先することは言うまでもありませんが、「入学準備学習」も並行して行ってください。課題 1 の問題に取り組むだけでも時間がかかると思いますが、教える力を付けるためには課題 2 の読書も必要です。課題 1 に取り組む中で負担を感じた場合は、気分転換も兼ねて課題 2（読書課題）を進めてみてください。

課題

1. ATAMA +に取り組む。

2. 推薦図書の感想文／要約文

(1) 数学専修は、I・IVから、図書を 1 つ選び、感想文（2000 字程度、用紙自由）を書く。
入学後の学年別ガイダンスのときに、担任に提出する。

《推薦図書リスト》

I. 教育

- 1『教育力』(斎藤孝著 岩波新書)
- 2『教えることの復権』(大村はま、刈谷剛彦・夏子著 ちくま新書)
- 3『新編 教えるということ』(大村はま著 ちくま学芸文庫)
- 4『学問のすすめ』(福沢諭吉著 PHP 文庫)
- 5『経験と教育』(ジョン・デューイ著 市村尚久訳 講談社学術文庫)
- 6『何のために「学ぶ」のか——(中学生からの大学講義)1』(外山滋比古著 ちくまプリマ一新書)

IV. 数理科学

- 1『数学の考え方』(矢野健太郎著 講談社学術文庫)
- 2『日本の数学』(小倉金之助著 岩波新書)
- 3『数学を作った人びと』(E・T・ベル著 田中・銀林訳 ハヤカワ文庫)
- 4『数学史入門』(志賀浩二、上野健爾著 講談社学術文庫)
- 5『博士の愛した数式』(小川洋子著 新潮文庫)
- 6『統計学が最強の学問である』(西内啓著 ダイヤモンド社)
- 7『解析入門』(田島一郎著)

ただし、IVの 7 を選んだ場合は、20 ページの問 12 までを読み、感想文ではなくまとめノートを提出すればよい。もちろん、20 ページまでの問題も解く。